

## 三重県におけるブラックバス・ブルーギル防除の取り組み —ため池での防除技術を中心に—

○中西尚文（三重県科学技術振興センター水産研究部鈴鹿水産研究室）  
・石田洋（三重県環境森林部自然環境室）

環境省のホームページでは「オオクチバス等に係る防除の指針」が公開されており、特に絶滅の恐れがある魚類，昆虫類，甲殻類の種の生息地における防除は優先度が高いとし，防除技術の概要も紹介されている。これ以外にも，市販書籍や全国内水面漁連・水産試験場のパンフレット等で様々な防除技術が紹介されているが，水産および生物研究関係者以外の市民には少々なじみにくく，特に釣り以外の防除技術については難しい印象を与えてしまっているのが現状である。そこで県が関与したため池におけるブラックバス・ブルーギルの防除について，実務的な事例を中心に紹介する。

本県では外来魚防除に関する事業が無い。しかし平成15年度以降，自然環境分野を事務局に，農業基盤，水産，水産研究の各担当が年1回集まり庁内会議を開催し，防除計画や最新の防除技術・生態など情報交換を行っている。ため池の完全な池干し（干し上げ，どび流し，落水，干出）の場合，実作業は農閑期早期の8月以降であるが，それまでに関係する市町，ため池管理者（主に利水組合）との会合を少なくともそれぞれ1回以上行っている。市町には法律の理解と自治体の立場を，ため池管理者には防除作業の必要性の説明が中心になる。

発表では県が関与した1)防除事例の概要，2)市町・利水組合との会合時の注意点，3)利水組合から池干しの合意を得るコツ，4)在来生物への配慮，5)物理的に池干しが難しい場合の排水例，6)防除確認，7)防除作業チェック事項，などを紹介する。

池干しは近年まで定期的に行われていた農閑期の大切な作業であり特別な技術を要しない。それにひと工夫するだけで，刺網および産卵床用刺網や釣りなどに比べ，資金・人材面でも効率的で，かつ確実性が高い防除が可能になると考えている。防除

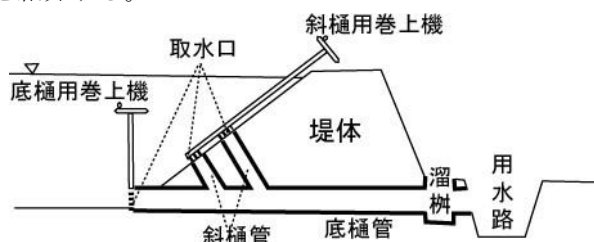


図1 ため池堤体構造

技術については，ため池の池干し時に使用する流出防止対策を紹介する。排水時には堤体下の樋や水路に安価な流出防止対策（通称：三重県式流出防止網）を施すことで，下流への流出・拡散も防止できると考えている。これは安価で構造も簡単であり，本県では採集道具としての許可も不要であることから，市民活動などにも容易に導入できると考えている。

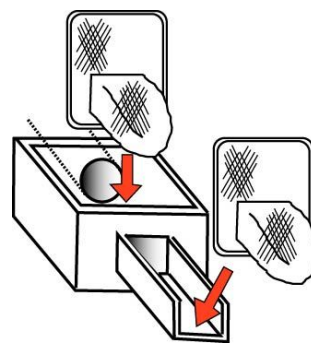


図2 流出防止網設置イメージ